

国勢調査について

国勢調査は、統計法に基づき、日本に住んでいるすべての人・世帯を対象とする5年毎に実施される国の最も重要な統計調査で、令和7年10月1日を基準日に22回目の国勢調査が実施されました。

(令和8年5月29日時点で速報値が発表されました。確定値は本年9月頃公表)

I 人口・世帯数の比較

①全国 人口・世帯数の比較

		令和7年(今回)	令和2年(前回)
人口	総数	123,049,524 人	126,146,099 人
	増減数	△3,096,575 人	△948,646 人
	増減率	△2.5%	△0.7%
世帯数	総数	57,124,507 世帯	55,830,154 世帯
	増減数	1,294,353 世帯	2,381,469 世帯
	増減率	2.3%	4.5%

②北海道 人口・世帯数の比較

		令和7年(今回)	令和2年(前回)	増減	増減率
人口	総数	4,985,419 人	5,224,614 人	△239,195 人	△4.6%
	男	2,355,629 人	2,465,088 人	△109,459 人	△4.4%
	女	2,629,790 人	2,759,526 人	△129,736 人	△4.7%
世帯数		2,465,414 世帯	2,476,846 世帯	△11,432 世帯	△0.5%

令和7年国勢調査速報による北海道の人口は 498 万 5,419 人で、前回令和2年調査に比べ、23 万 9,195 人減少した。減少数と減少率は前回調査を上回り過去最大となった。道内人口は、昭和60年までは毎回増加していたが、平成2年に初めて減少し、平成7年に一旦増加してピーク(569 万 2 千人)となったものの、平成12年から6回連続で減少しており、今回昭和30年以来70年ぶりに500万人を下回った。

北海道の男性人口は 235 万 5,629 人で、前回調査に比べ、10 万 9,459 人減少した。男性人口は昭和60年にピーク(276 万 6 千人)となり、平成7年に一旦増加したものの、その後、毎回減少が続いている。女性人口は 262 万 9,790 人で、前回調査に比べ、12 万 9,736 人減少した。女性人口は平成12年にピーク(296 万 3 千人)となり、その後、毎回減少が続いている。

北海道の世帯数 246 万 5,414 世帯で、前回調査に比べ、1 万 1,432 世帯減少した。世帯数が減少となるのは調査開始以来初めてのことであり、1 世帯当たりの人員は 2.02 人で、前回調査に比べ 0.09 人減少した。

Ⅱ 市町村別の人口

北海道内179市町村のうち、前回調査から人口が増加した市町村は、恵庭市、南幌町など9市町村、増加率では占冠村が最も高く、次いで南幌町となっている。

人口が減少した市町村は、旭川市、函館市など170市町村であり、夕張市、中川町など84市町村で10%以上の減少率となった。

①増加した市町村（9市町村）

増 加 数				増 加 率			
市町村名	R 7	R 2	増加数(人)	市町村名	R 7	R 2	増加率(%)
恵庭市	70,918	70,331	587	占冠村	1,487	1,306	13.9
南幌町	7,890	7,319	571	南幌町	7,890	7,319	7.8
東川町	8,726	8,314	412	ニセコ町	5,370	5,074	5.8
ニセコ町	5,370	5,074	296	東川町	8,726	8,314	5.0
千歳市	98,177	97,950	227	長万部町	5,310	5,109	3.9
共和町	5,989	5,772	217	共和町	5,989	5,772	3.8
長万部町	5,310	5,109	201	恵庭市	70,918	70,331	0.8
占冠町	1,487	1,306	181	仁木町	3,188	3,180	0.3
仁木町	3,188	3,180	8	千歳市	98,177	97,950	0.2

②減少した市町村（10市町村）

減 少 数				減 少 率			
市町村名	R 7	R 2	減少数(人)	市町村名	R 7	R 2	減少率(%)
旭川市	305,701	329,306	△23,605	夕張市	5,618	7,334	△23.4
函館市	230,498	251,084	△20,586	中川町	1,230	1,528	△19.5
釧路市	151,326	165,077	△13,751	月形町	2,993	3,691	△18.9
小樽市	100,404	111,299	△10,895	積丹町	1,498	1,831	△18.2
札幌市	1,964,034	1,973,395	△9,361	上砂川町	2,327	2,841	△18.1
室蘭市	74,019	82,383	△8,364	歌志内市	2,451	2,989	△18.0
北見市	108,287	115,480	△7,193	和寒町	2,669	3,192	△16.4
岩見沢市	73,004	79,306	△6,302	福島町	3,184	3,794	△16.1
帯広市	160,764	166,536	△5,772	松前町	5,263	6,260	△15.9
苫小牧市	164,420	170,113	△5,693	江差町	6,259	7,428	△15.7

国内人口最大309万人減

国勢調査総数1億2304万人

総務省は29日、2025年10月1日時点の国勢調査の速報値を発表した。外国人を含む日本の総人口は1億2304万9524人で、20年の前回調査から309万6575人(2.5%)減った。減少率とも1920年(大正9年)の統計開始以降最大。東京都と沖縄県を除く45道府県で人口減となった。(1面参照)

東京、沖縄のみ増

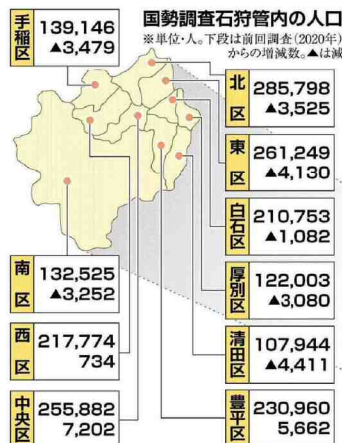
総人口の減少は、初だった15年から3回連続。減少率は15年の0.8%、20年の0.7%を大きく上回った。

人口が増えた45道府県のうち39道府県で減少率が拡大。都道府県別では秋田県の8.1%が最も高く、青森県の7.9%、岩手、山形、高知県の7.0%が続いた。

東京圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)の人口は3698万5557人で、全国の30.1%を占めた。東京都は19万8621人増と一極集中が続くものの、増加率は20年の3.9%から1.4%に縮小。埼玉、千葉両県は統計開始以降初、神奈川県は戦後初の減少となった。愛知、滋賀、福岡の3県も増加から減少に転じた。

全国で人口が減った市

管内238万人 初の減少



国勢調査速報値

都市部も歯止めかからず

29日に発表された2025年の国勢調査速報値で、石狩管内の人口は238万1989人となり、20年の前回調査から1万4743人減となった。1920年(大正9年)の調査開始以来、初めて減少した。札幌市や江別市などの都市部でも人口減少が進む一方、恵庭市と千歳市では増加し、対照的な結果となった。恵庭市は増加数が北海道内市町村で最多だった。

札幌市は前回から9361人減の196万4034人。減少数は全道で5番目に多かった。10区のうち増えたのは中央、豊平、西の3区で、前回の7区から減った。市は、死亡数が出生数を上回る自然減が高齢化の進行で拡大したことが要因と分析している。

このほか管内で減少したのは江別市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村。前回調査で増加した江別市は1.2%減となり、15年の調査の2.5%減以来のマイナスとなった。

北広島市は前回から4%減、石狩市は1.9%減。ともに減少率は拡大しており、継続的な対策が求められそう。新篠津村は10.2%減で減少率は管内で最も高かった。

当別町は6.1%減で、前回から改善。移住や定

住の促進に力を入れており、子育て世代が増えているという。

恵庭市は人口増を続けており、今回は0.8%増。市によるとコロナ禍以降、技能実習生や留学生を多く受け入れている。

千歳市は0.2%増。前回から伸びは鈍化した。最先端半導体の量産を目指すラピダス(東芝)の工場立地などの効果が続いているとみられる。(水野薫)